（　　　　）

題　目（16ポイント（以下、pt）、MS明朝ボールド）

［１行空け］

副題(12pt、MS明朝)　 ※なければ行を詰める

［１行空け］

氏名（所属） (11pt、MS明朝)　 ※投稿時には非記載とし、空白行としておく

［１行空け］

概要：ここから開始（９pt、ＭＳ明朝、１行50字×５行以内）本様式に例示する論文記載の方法は一部です。論文記載方法の全ては、『職業教育学研究』投稿要領を確認してください。タイトル、氏名及び所属等は、１頁目に初めの12行を目安に記す。氏名に続けて、括弧の中に所属を記す。研究論文には、全角で250字以内の概要と５つ以内のキーワードを先頭に付ける。概要、キーワード、本文、註、引用文献、付記、受理日の文字は９pt、図表の文字は８pt以上とする。フォント（日本語、英数字）は書式ファイルで使用しているものに従うこと。

［１行空け］

キーワード：○○○／○○○／…（9pt、MS明朝）

［１行空け］

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |
|  | 文字は8pt以上 | | |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

表 1 表番号の例

# 1. 本文の記述方法

本文ここから開始（１行27字×２段組）（行間14pt、段落→行間「固定値」、間隔「14pt」）（書体「9pt、ＭＳ明朝」）

レイアウト原稿とは学会誌の刷り上がりイメージと同様に文章及び図表等が配置されている原稿のことであり、書式は次の通りとする。

レイアウト原稿の形態は、Ａ４判縦向き横書きを原則とする。

学会誌の完成時における１頁のレイアウトは、本文（註および参考文献を含む）を27字50行２段組とする。もしワープロソフトによる註の自動割付機能（MS-Wordの場合なら脚注機能）を使用して作成した場合は、提出前に、自動割付機能を使わずにレイアウトを整え直してください（「投稿要領」9（3）を参照のこと）。

句読点は、日本語の場合は「、」と「。」、英語の場合は「,」と「.」の組合せを用いること。

図 1　図番号の例

文字は8pt以上

# 2. 見出しの形式

# 2.1. 最上位の見出し

最上位の見出し（1.、2.、3. …）は、見出しの前に１行行間を空ける。

# 2.2. 下位の小見出し

下位の小見出し（1.1.、1.2.、1.3. …）およびこれ以下のものについて、下位の小見出しの前に１行行間を空けるか否かは投稿者の判断に委ねる。

# 2.3. 図表および写真

図表および写真は、図１、表１、図２、写真１…のように、それぞれに通し番号をつけるとともに、必ずタイトルをつける。番号とタイトルは、図と写真であれば図や写真の下部に、表であれば表の上部に、それぞれ表示する。

# 3. 脚注・引用文献の記載

# 3.1. 脚注の記載

脚注がある場合には、文中の該当箇所に1)，2)，…のように表記し、本文の後ろにまとめて記載する。

# 3.2. 引用文献を示す割注の記載

引用文献を示す割注は、著者の姓、出版年、引用始頁-終頁の記載を原則とする。２つ以上の文献を並列して示す場合は、文献と文献の間に「；」（セミコロン）を入れる。

なお、翻訳書の場合は、原著者の姓、原著出版年、訳書出版年、訳書での引用始頁-終頁を記載し、原著出版年と訳書出版年の間に「=」（半角イコール）を入れる。なお、同一著者が同一年に発刊した論文については、出版年の直後に小文字のアルファベット（2021a、2021b、…）を付すことで、文献を同定可能にする。以下、いくつか例示する。

・山田（2020）によると、…

・Jackson（1996=2000）によると、…

・…「…」である（海山・山田1999a: 3-4）。

・…について分析した研究もある（例えば、Umiyama and Yamada 2007; Suzuki et al. 2021）。

・Education & Skills Funding Agency (2022)によると、..

# 3.3. 引用文献の文末への記載方法

引用文献は、本文脚注の後ろに、日本語文献と外国語文献を分けずに、著者の姓のアルファベット順に一括して記載する。なお、論文中で一切示されていない文献（参考文献）は記載しないこと。

引用文献の記述は、雑誌の場合、著者、発表年、表題、雑誌名、巻数（号数）、論文所在ページの順とし、単行本の場合、著者、発表年、書名、発行所の順とすることを基本とする。論文所在ページは始頁と終頁を「-」（半角ハイフン）で結んで示す。日本語で表記する論文・記事名は「」（カギカッコ）で、雑誌名・書籍名は『』（二重カギカッコ）で囲む。英語で表記する雑誌名・書籍名はイタリック体にて表記する。URLアドレスを参照する場合は、これら書誌・資料情報に加えて、URLアドレス、最終確認日を記載する。

ひとつの引用文献の書誌情報が２行にわたる場合には、２行目以降は全角２文字分をインデントして記載する。

以上の例示は、引用文献の項に示す。

なお、査読時に引用文献およびその内容が確認できなかった際のリスクは、すべて投稿者が負う。また、出典が有料データベース等となる場合、確認に要する費用は、派生する間接的経費を含めて投稿者がすべて負担となる場合もある。

# 注

(1) 脚注がある場合には、文中の該当箇所に(1)，(2)，…のように表記し、本文の後ろにまとめて記載する。

# 引用文献

Education & Skills Funding Agency (2022), *Apprenticeship funding rules and guidance for employers August 2021 to July 2022*. https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment\_data/file/1078474/Funding\_Rules\_Employers\_20212022\_Version\_3.pdf, 2022年6月28日確認

Jackson, M. (1986), *Apprenticeship in Germany*. GSS pub.. 鈴木三郎（訳）(2000)『ドイツにおける徒弟訓練』職業教育出版

Suzuki, S., Yamada, I. and Umiyama, H. (2022), *Changing Technical Education in Japan: the Influence of COVID-19 Pandemic*. Tokyo: JSS press.

海山花香・山田壱郎 (1999a)「技術教育と職業教育」『職業教育学研究』第49巻第3号、1-8頁

海山花香・山田壱郎（1999b）「専門職養成の課題と展望」鈴木佐武朗（編）『技術教育・職業教育の地平』杉山記念職業教育研究センター、95-115頁

Umiyama, H. & Yamada, I. (2007), The System of VET in Terciary Education in Japan. *Journal of Technical and Vocational Education*, 3(1), 46-58.

山田壱郎 (2020)『職業教育訓練の研究』職業教育出版

本様式に例示する論文記載の方法は一部であるが、少なくとも投稿要領で示されていることを遵守し、文献毎に記載形式が異ならないように統一を図ること。なお、参考として、英語文献記載の方法については、アメリカ心理学会（APA）による論文作成ガイドラインも参照いただきたい（URL: <https://apastyle.apa.org/>）

# 付記

付記（研究助成の記載、謝辞等）は、投稿段階では記載せず、記載スペースだけを確保する。最終原稿のレイアウト原稿の段階で、記載すること。最終原稿で付記を追加したことで、全体が8頁を超えるようなことは認められないので、注意すること。

（20XX年XX月XX日　受理）